

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年9月26日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・1歳児「自然の探索をしてみよう」

<テーマ設定理由>

9月になってようやく暑さが落ち着いてきた日もあり、これから散歩に出掛けて自然の中での探究活動を予定しています。今回は、夏の終わりの自然の中で、自由に散策しながら自然に触れ、子どもの気づきや発見を経験出来たらということで計画しました。

2. 活動スケジュール

9月の園外保育と自然とのかかわり

- ・9月8日 近隣の公園
- ・9月22日 団地内の公園
- ・9月25日 団地内の公園

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・散歩用リュック
- ・無線機
- ・動画撮影用iphone

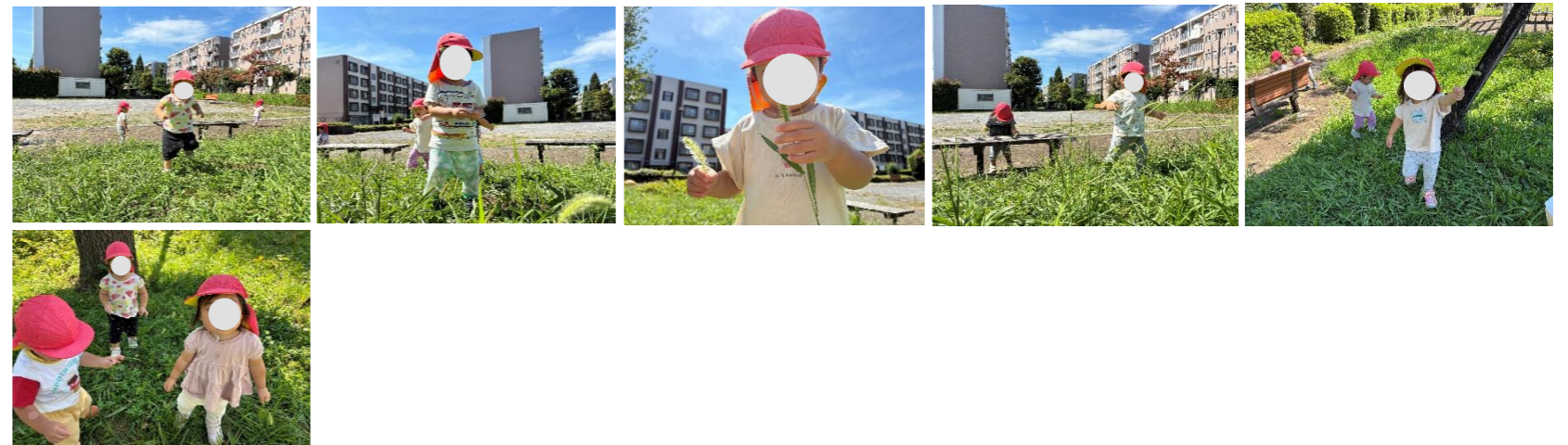
4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・9:40～散歩に出掛ける。
- ・保育士や友だちと手を繋いだり避難車に乗って近隣の公園に出かける。
- ・動物公園横のてんとうむし公園に到着。
- ・公園内には雑草や草花が生い茂っている場所があるので、その場所に誘う。
- ・草花に興味を持ち触ったり摘んだりしている。
- ・「これなに？」と聞きく子どもがいる。
- ・保育士と一緒に見てみたり自然に触れたする。
- ・猫じゃらしを摘んだ子どもは持ち歩いて喜んでた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・猫じゃらしや細長い草をつまんでじっと見つめている。
- ・両手に持って歩く子もいる。
- ・触ったときの手触りを何度も試している子どもがいる。
- ・ふわふわしている猫じゃらしの穂が気持ちいのか肌に触れさせている子どもがいる。
- ・猫じゃらしが気に入って持ち歩いている子どもがいる。
- ・草を何本か集めて持ち歩いたり、揺らしてみたりすることで、動きの変化も楽しんでいる。
- ・子どもが草を高く掲げて見せている様子から、「みて」「これとったよ」と保育者に知らせ、保育者が「ながいね」「ふわふわだね」などと応じるやりとりを楽しんでいる。
- ・草を渡そうとする仕草から、保育者が「ありがとう」「どこにあったのかな？」と問いかけると、子どもが指さしや歩いて見つけた場所を教えてくれた。
- ・近くで同じように草を取っている友だちの姿を見て、まねをして草を探している。
- ・「おなじ」「自分ももらった」ということが嬉しいのか友達と同じ草を手にしてしばらく持ち歩いていた。
- ・ベンチのそばで並んで立ったり、横でしゃがんで草をいじる様子から、「なんだろう」「ここにいっぱいあるよ」「こっちに来て」というような、視線や身振りで思いが伝わってくる。



1. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・1歳児が自分の足で草むらに踏み込み、草や猫じゃらしに触れたり手に取ってじっくり見たりする姿から、身近な自然への関わりから子どもの好奇心や探究心を引き出す様子を見ることができました。
- ・草の感触を楽しむように触れている子ども、同じ草を何本も集めたりする子どもなど、見つけたものに触ってみたいという思い、見つけたものを手にする喜びを表情や仕草で表していました。
- ・「これは何だろう」「もっと触ってみたい」という気持ちが子どもから感じられ、公園内を自由に歩きながら探していました。
- ・猫じゃらしを保育士や友だちに見せる、差し出すなどの姿から、自然物がコミュニケーションのきっかけとなり、保育士と思いを共有しようとする力につながっていることを感じました。
- ・公園の草地や木陰など、多少草が伸びている場所でも安全に配慮しながらあえて入り込めるようにすることで、子どもが自ら発見を広げています。
- ・ベンチや坂、土の違いなど、人工物と自然物が混ざった環境だからこそ、座ってじっくり観察したり、登ったり降りたりと全身を使って遊びが豊かになっていると思います。
- ・「これなあに？」と問う表情やしぐさを丁寧に読み取り、子どもに合わせて言葉を添えることで、自然への驚きや発見を言葉につなげる援助ができると思います。
- ・大人が「こう遊ばせよう」と決めすぎず、子どもの視線の先や動きを観察して受け止めることで、子ども自身の主体的な遊びや「やってみたい」という気持ちをより引き出せると感じました。
- ・季節ごとに同じ場所へ散歩に出掛けると、草花の変化に子どもが気づきやすくなり、「前と違う」という経験を通して自然の移り変わりへの感性を育てていけると感じました。